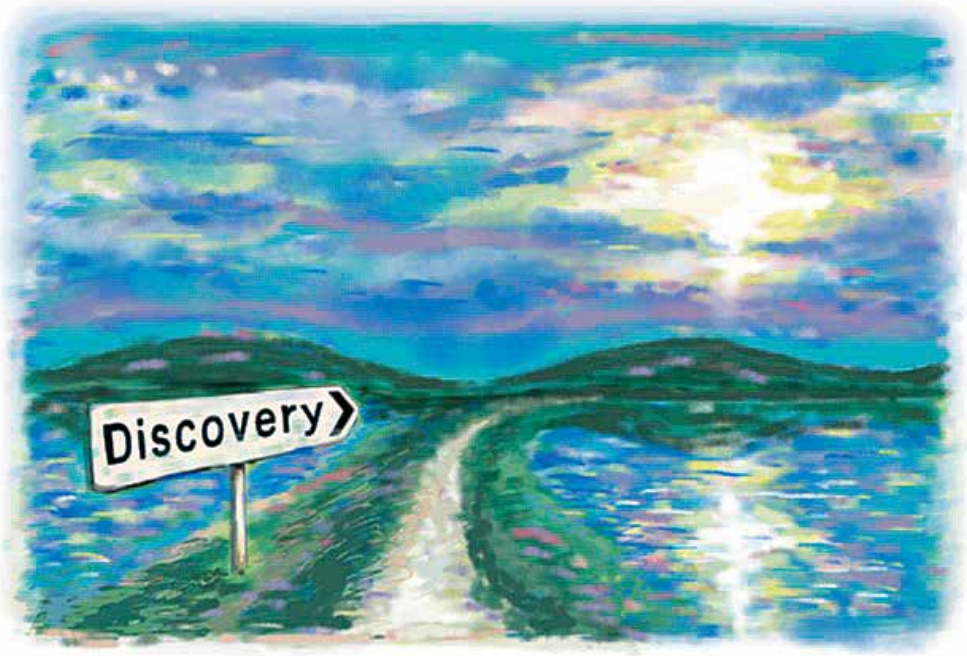
文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業

# 障害者の生涯学習活動への地域包括的支援

— 令和２年度 —

# 事 業 報 告 書



長崎大学医学部保健学科

# ごあいさつ

長崎大学医学部保健学科長
（事業推進責任者）
**澤井　照光**

平成30年6月25日に「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」としてスタートした本事業の3度目の年度報告をさせていただくに当たって、大変ご多忙であるにも関わらず幾度となくご助言くださった関係機関の皆様、コロナ禍の中にあっても変わらずご支援いただいたピアサポーターの方々、そしてご参加いただいた当事者ならびにそのご家族の皆様方に改めて心より深く御礼申し上げます。

本事業は当初、全国で5つの地方公共団体と9つの民間団体及び本学を含む4大学の計18件でスタートしました。令和元年度には3件の中止と6件の新規参画によって、地方公共団体4件、民間団体10件、保護者の会と企業が各1件、大学5件の計21件での取組となり、3年目となった本年度は、これまでの成果を全国に普及するため「ブロック別のコンファランス等の取組を実施」することが課題になるとともに、「新たに関係機関のコンソーシアム形成による地域連携体制の構築を図る」目的で、本学は九州・沖縄ブロックとして「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」及び新規参画の「宮崎県」と文字通り手をつなぎ、地域における持続可能な学びの支援に繋げていくことが計画されました。

こうして令和2年度に新たなステージへと突入した本事業でしたが、年始を迎える頃から懸念されつつあった新型コロナウイルスによるパンデミックが現実のものとなってしまい、当たり前の様に過ごしてきた生活の基盤がいかに脆弱であったか思い知らされることとなりました。ただ、不幸中の幸いと言って良いかどうか、教育機関であるがゆえに授業のオンライン化が先行し、その経験や機器の整備等もあって、「学校から社会への移行期における学習プログラム」や「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム」、あるいは連携協議会に際しても対面とオンラインとの併用で問題なく実施することができました。令和3年1月23日に予定されている九州・沖縄ブロックのコンファランスもオンラインでの開催を予定していますが、直近1週間での人口10万人当たりの新型コロナ感染者数が、1月11日現在で宮崎県：41.85人（都道府県第6位）、福岡県：40.77人（第8位）、長崎県：22.53人（第16位）という状況の中、安全に実施できることに胸を撫で下ろしております。

Withコロナという観点から、対面+オンラインという新たな経験に加え、本事業で作成したDVD「リカバリー入門」が高く評価されたことも大きな収穫であり、地域における持続可能な学びの支援を継続するに当たり、とくに引きこもりの状態にある当事者の方々にとって参加への第一歩がより容易となる体制作りに役立つものと期待しております。本事業によって得られた経験は、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取り組みを推進する上での重要なマイルストーンになると考えております。本事業にご尽力くださいました皆様方に、重ね重ね御礼申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展を祈念いたします。

目次

**ごあいさつ**

長崎大学医学部保健学科長　澤井　照光（事業推進責任者）

**本事業の実施概要**

事業概要 …… 7

組　　織 …… 9

**活動報告**

障害者の生涯学習プログラム ……13

1．学校から社会への移行期における学習プログラム

⑴受講者募集期間

⑵募集人数、応募者数、受講者数

⑶プログラム開講期間

⑷プログラム内容

⑸プログラム修了時の受講生の感想

⑹活動風景写真

2．生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

⑴受講者募集期間

⑵募集人数、応募者数、受講者数

⑶プログラム開講期間

⑷プログラム内容

⑸プログラム修了時の受講生の感想

⑹活動風景写真

遠隔教育教材開発及び貸出・配信 ……19

フォーラム……25

1．ピアサポートみなととの共同開催

「元気がでるグループをみんなで創ろう！」

2．令和2年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」（予定）

広報及び事業経過報告活動 ……32

1．Web広報

2．事業経過報告

⑴第54回日本作業療法学会（Web開催）

⑵「特別の支援を必要とする多様な子どもの理解」発行

**会議報告**

１．連携協議会 ……37

⑴第１回連携協議会

⑵第２回連携協議会

⑶第３回連携協議会

⑷第４回連携協議会

**総　　括**

長崎大学医学部保健学科　田中　悟郎（事業プロジェクトリーダー）……41

**資　　料**

１．令和２年度事業カレンダー ……45

２．学校から社会への移行期における学習プログラム
令和２年度募集要項 ……47

３．生涯の各ライフステージにおける学習プログラム
令和２年度募集要項 ……55

４．学校から社会への移行期における学習プログラム資料 ……63

５．生涯の各ライフステージにおける学習プログラム資料 ……83

# 本事業の実施概要

# 事業概要

**【実施主体】** 長崎大学医学部保健学科

**【実施期間】** 平成30年～令和2年　3カ年間

**【事業の概要と目的】**

本事業は、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として実施するものです。長崎大学の事業名は「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」です。学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長するため、(ア)学校から社会への移行期、(イ)生涯の各ライフステージ、における効果的な学習に係る具体的な学習プログラムや実施体制、地域の生涯学習、教育、スポーツ、文化、福祉、労働等の関係機関・団体等との連携の在り方に関する実証的な研究を行い、成果を全国に普及します。

**【令和２年度のプログラム内容】**

１．学校から社会への移行期における学習プログラム

目的：「仲間と出会い、自分の特性を知る」を目標に、先輩当事者・ピアサポーターによる講義や大学生との協働学習体験などを含んだ学習プログラムを提供いたします。

対象：発達障害または精神障害がある人

内容：先輩当事者の体験談、疾患・障害の心理教育、社会生活技能訓練(Social Skills Training:SST)などです。外部講師(当事者含む)を招聘したり、大学生及び大学院生のボランティアとの交流もあります。なお、プログラムは、受講生の皆様のご希望を伺いながら、より具体的な内容を決定していく予定です。月1回、13:30-16:30の3時間、日曜日に開講します。3時間を3コマ(活動45分、休憩15分)と想定し、計5回(15コマ)、長崎大学医学部保健学科にて実施する予定です。

【初回】 8/23(日)：オリエンテーション(自己紹介)、ピアサポーターのリカバリーストーリー
【２回】 9/20(日)：疾患・障害の心理教育
【３回】10/18(日)：コミュニケーションについて
【４回】11/22(日)：ストレス対処法
【５回】12/ 6(日)：自分の特徴を伝える、修了式

２．生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

目的：「夢や希望を持って生活できる」を目標に、英国のRecovery Collegeのプログラムを参考に、当事者と専門職がCo-production の理念のもと、協働しながら運営・実施します。

対象：発達障害または精神障害がある人

内容：先輩当事者の体験談、元気回復行動プラン(Wellness Recovery Action Plan:WRAP)、当事者研究、恋愛／結婚などです。外部講師(当事者含む)を招聘したり、大学生・大学院生のボランティアとの交流もあります。なお、プログラムは、受講生の皆様のご希望を伺いながら、より具体的な内容を決定していく予定です。月1回、13:30-16:30の3時間、日曜日に開講します。3時間を3コマ(活動45分、休憩15分)と想定し、計5回(15コマ)、長崎大学医学部保健学科にて実施する予定です。

【初回】 9/27(日)：オリエンテーション(自己紹介)、ピアサポーターのリカバリーストーリー
【２回】10/25(日)：疾患・障害の心理教育
【３回】11/29(日)：元気を回復するために1
【４回】12/20(日)：元気を回復するために2
【５回】 1/10(日)：ストレス対処法、修了式

【令和２年度の事業概要図】

【3カ年間スケジュール】

［平成30年度］

・連携協議会の設置及び事業関連職員の配置
・本事業の公表及び推進のためのホームページの立ち上げ
・連携協議会の開催（年４回）
・キックオフシンポジウムの開催
・２つの学習プログラムの実施
・障害者の生涯学習推進フォーラムの開催
・事業関係者による国内視察
・成果報告フォーラムの開催

［令和元年度及び令和2年度］

・連携協議会の設置及び事業関連職員の配置
・連携協議会の開催
・障害者の生涯学習推進フォーラムの開催
・２つの学習プログラムの実施
・遠隔教育教材の開発
・事業関係者による国内視察
・成果報告フォーラムの開催

# 組　織

**事業推進担当者：**

澤井　照光（長崎大学医学部保健学科長）＊事業推進責任者
田中　悟郎（長崎大学医学部保健学科教授）＊プロジェクトリーダー
岩永竜一郎（長崎大学医学部保健学科教授）
徳永　瑛子（長崎大学医学部保健学科助教）
吉田　ゆり（長崎大学教育学部教授、長崎大学ダイバーシティ推進センター長）
今村　　明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療講座教授）
石川　衣紀（長崎大学教育学部准教授）
調　　漸（長崎大学副学長）

**コーディネーター：**

河野　知房（NPO法人のぞみ共同作業所長、作業療法士）

**技術補佐員（大学院生）：**

川中　瑞帆（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士）
米田　直人（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士）

**ボランティア学生：**

加世田　怜、清水　夢乃、平山　友菜（長崎大学医学部保健学科4年）

**【参考】長崎大学子どもの心の医療・教育センター実務者会議構成員**

調　　漸（長崎大学副学長・子どもの心の医療・教育センター初代センター長）
岩永竜一郎（長崎大学子どもの心の医療・教育センター副センター長）
吉田　ゆり（長崎大学教育学部教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
石川　衣紀（長崎大学教育学部准教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
高橋　甲介（長崎大学教育学部准教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
今村　　明（長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療講座教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
田中　悟郎（長崎大学医学部保健学科教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
徳永　瑛子（長崎大学医学部保健学科助教、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員）
深堀　久幸（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科総務課長）
佐藤　良次（長崎大学医学部保健学科専門職員）
宮原　春美（長崎大学名誉教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター技術補佐員）
濱中　真実（長崎大学子どもの心の医療・教育センター技術補佐員）
久保　結花（長崎大学子どもの心の医療・教育センター技術補佐員）
松尾　萌美（長崎大学子どもの心の医療・教育センター事務補佐員）

# 活　動　報　告

# 障害者の生涯学習プログラム

## 1．学校から社会への移行期における学習プログラム

⑴受講者募集期間
令和2年7月20日（月）から令和2年8月17日（月）まで
⑵募集人数、応募者数、受講者数
募集人数（障害者枠）は15名、応募者数及び受講者数は6名（男性4名、女性2名；平均年齢19.2歳）
募集人数（支援者枠）は5名、応募者数及び受講者数2名（男性1名、女性1名）
⑶プログラム開講期間
令和2年8月23日～令和2年12月13日
⑷プログラム内容
プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、先輩当事者との交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めた。

【初回】 8/23（日）：オリエンテーション（自己紹介）、ピアサポーターの体験談
参加者：受講者5、支援者2、ピアサポーター 6（オンライン2）、学生・院生4、
コーディネーター 1、大学教員1、計19名（オンライン2）
【2回】 9/20（日）：疾患・障害の心理教育
参加者：受講者6、支援者2、ピアサポーター 6（オンライン3）、学生・院生4、
コーディネーター 1、大学教員1、計20名（オンライン3）
【3回】10/18（日）：コミュニケーション
参加者：受講者5、支援者2、ピアサポーター 6（オンライン1）、学生・院生6、
コーディネーター 1、大学教員1、計21名（オンライン1）
【4回】11/22（日）：ストレス対処法
参加者：受講者5、支援者2、ピアサポーター 6（オンライン1）、学生・院生3、
コーディネーター 1、大学教員1、計18名（オンライン1）
【5回】12/ 6（日）：自分の特徴を伝える、講座の振り返り、修了式
＊受講者の都合のため当初予定していた12/13は中止し、12/6に実施
参加者：受講者5、支援者2、ピアサポーター 5（オンライン2）、学生・院生5、
コーディネーター 0、大学教員1、計18名（オンライン2）

⑸プログラム修了時の受講生の感想（①本講座のプログラムの満足度：「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」から一つ選択。②感想）
A氏：「①「満足」。②自分の長所や自分の特性などを聞いて、“自分はこういう人です”や“自分はこういうことに困っています”を言ってよかったと思いました。自分が事業所では言えないことを言ったり、そして自分の困っていることをいろんな人から“こうした方がいいよ”と教えてくれたりしてうれしかったです。自分の意見が言えたり、質問が言えたりしたので、アドバイスをもらったりして、うれしかった。今日のプログラムでは、自分の長所や自分の特性などが言えてよかったです。他には、趣味や休日にしたいことなどを付箋に書き、いろんなことが書かれていて、自分もやってみようと思いました。いろんなことや対処法を聞いて、学んでよかったと思います。グループワークを通じて、いろんなことが聞けて、メモをしてよかったです。」

B氏：「①「満足」。②グループワークを通して、どのプログラムでも人に相談するということがいいんだということがわかってよかったと思いました。ストレス対処の時にごろ合わせで覚えていくのがよかったと思いま

した。たくさんの長所や困ったことをみなさんで話合いながらできたのでよかった。自分の長所は、ムードメーカー、雰囲気がおだやか、人の話をしっかり聞く、聞くときに目を合わせるです。見落としや忘れ物、整理整頓や物事の優勢順位つけ、読み、書き、計算などで困っている。その対策は、事前に準備、あまりお金を持たない、スマホの計算機を使うなどで、周囲には、声かけ、一緒にする、相談にのってほしい。」

C氏：「①「満足」。②自分が困っていることに対して、共感をしてくれたり、アドバイスをいただきました。自分の思っていることを素直に言うことができました。ピアサポーターのみなさん、大学生のみなさんとはたくさんお話ができました。自分の長所で悩んでいる時に、明るくておしゃべりだよねと言われた時に、確かにそうかもと思いました。自分は初めて会った人とはあまりコミュニケーションをとることが高校生のころは苦手でした。でも事業所でお話をする中で、初めて会った人ともコミュニケーションがとれるようになりました。」

D氏：「①「満足」。②本講座で学んだことは、他者にうまく教える方法、対人関係、自分が今困っている事、ストレスになっている事とその対策、自分の長所と特性、そしてその対策と周囲へのお願いでたくさん出すことができました。感覚の過敏性、見落としや忘れ物、自分の気持ちや意見を言葉で説明する、人の名前や顔を覚えるなどで困っている。無理せず、講座を受けることができた。気を張らないで行え、楽しいと思えました。」

E氏：「①「どちらともいえない」。②障害や特性の悩みは大変だなあと思いました。みんなの意見がよく出せて、よくまとまって、よかったなあと思いました。自分の長所は、自分なりに頑張ること、仕事に慣れるとスピードがあがり、ていねいさが身につく、わかりやすく相手に伝えるなどです。聞き逃すことや言われたことを覚えていない、くしゃみが大きいことなどで困っています。自分でできる対処法は、整理をしてみる、よく考えて実行する、夜早く寝ることです。周囲には、大切にしてもらいたい。」

⑹活動風景写真

## 2. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

⑴受講者募集期間

令和2年7月20日（月）から令和2年8月17日（月）まで）

⑵募集人数、応募者数、受講者数

募集人数（障害者枠）は15名、応募者数9名、受講者数8名（男性6名、女性2名；平均年齢44.3歳）

募集人数（支援者枠）は5名、応募者数3名及び受講者数3名（男性3名；平均年齢50.3）

⑶プログラム開講期間

令和2年9月6日～令和2年12月20日

⑷プログラム内容

プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、先輩当事者との交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めた。

【初回】 9/27（日）：オリエンテーション（自己紹介）、ピアサポーターの体験談

＊台風のため当初予定していた9/6は中止し、9/27に実施

参加者：受講者8（オンライン1）、支援者3、ピアサポーター7（オンライン3）、学生・院生5、コーディネーター1、大学教員1、計25名（オンライン4）

【2回】10/25（日）：疾患・障害の心理教育

参加者：受講者7（オンライン1）、支援者3、ピアサポーター7（オンライン2）、学生・院生5、コーディネーター1、大学教員1、計24名（オンライン3）

【3回】11/29（日）：元気を回復するために1

参加者：受講者7（オンライン1）、支援者3、ピアサポーター7（オンライン2）、学生・院生3、コーディネーター1、大学教員1、計22名（オンライン3）

【4回】12/20（日）：元気を回復するために2

参加者：受講者6（オンライン1）、支援者2（オンライン2）、ピアサポーター7（オンライン7）、学生・院生2、コーディネーター1、大学教員1、計19名（オンライン10）

【5回】 1/10（日）：講座の振り返り、修了式（コロナ禍のため、全員オンラインで参加）

参加者：受講者4、支援者3、ピアサポーター7、学生・院生2、コーディネーター1、大学教員1、計18名（オンライン18）

⑸プログラム修了時の受講生の感想（①本講座のプログラムの満足度：「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」から一つ選択。　②感想）

A氏：「①「満足」。②同じ境遇を持った人と交流できたことが良かった。3回しか講座に参加していない。オンラインより生で触れ合える方が好きです。その場の雰囲気とかを汲み取ってできる。ストレスの対処法は、人に話そうと思っても、話せず、うやむやになる。」

B氏：「①「満足」。②悩んでいるのは一人ではないと感じることができた。参加しやすい雰囲気で参加できたこと。否定する人がいなくて話を真剣に聞いてくれたことが良かった。またこういう集まりがあったら参加したい。」

C氏：「①「満足」。②WRAPを学びたかったので勉強になった。いろんな人の話を聞けた。ZOOMの練習ができた。病気や引きこもり、WRAP、傾聴などを日時を延ばしてもっと深く学びたいと思った。対面の方が楽しく行えたと思った。雰囲気とか場の盛り上がりとか。ZOOMを体験したから感じることができた。」

D氏：「①「やや満足」。②WRAPが良かった。自分と違う考えがあってよかった。ZOOMと来ている人の交流

が少なかったので、ZOOMの講座を直接参加する人の講座を別々にするとよりよかったのではないか。空気がわからなかった、家にいるのでくつろぎながらやれるのは良かった 。WRAPをZOOMでやってしまうと、本来と違うものになってしまうのではないか。」

E氏：「①「満足」。②受講者の人からのお誘いがあり参加した。この出会いが一番の学びでした。自分の経験や知識を皆さんに提供できたらと思いますし、今後もこのようなつながりを大切にしたいので、来年度も行えたらいいなと思います。」

F氏：「①「満足」。②自分の弱みとかを素直に話せる場であるのがすごくいいと思った。リカバリーの仕方を考えることができる。自分の思うことを口に出し、聞いてくれる人がいることはとても良い。」

G氏：「①「やや満足」。②リカバリーストーリーやグループワークでお話しいただく中で、皆さん自分自身を持っていると思った。自分の経験を意味づけしている。地域移行などが進んでいくべきだと思っていて、病院の機能だけでは難しいので、皆さんの経験がほかの患者さんのためになる。皆さんの経験がもっと多くの人に届けばいい。何かできることがあれば協力したい。」

⑹活動風景写真

# 遠隔教育教材開発及び貸出・配信

## 1. 目的

外出困難な人（ひきこもりの状態にある人）または離島在住の人へのリカバリーを目標にした遠隔教育教材の開発及び貸出・配信

## 2. 教材の内容

⑴「リカバリー入門」

⑵ピアサポートみなと10周年記念事業フォーラム

## 3. 教材の配信方法

⑴DVD（「リカバリー入門」）の貸出

視聴希望者公募→本人・家族・事業所等からの申込み（理由書等の提出）→ 期限付きでDVD貸し出し→DVD回収（本人・家族・事業所等から感想を頂く）

⑵「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」ホームページ上(https://ngs-recovery.net/)にビデオ教材アップ

視聴希望者公募（予定）→本人・家族・事業所等からの申込み（理由書等の提出）→期限付きで視聴に必要なパスワード等の情報を提供→期限終了後、本人・家族・事業所等から感想を頂く→パスワード変更

## 4. DVD（「リカバリー入門」）視聴後の感想（抜粋）

⑴長年、サービス管理責任者として精神障害のある方の支援に携わり、クライアントの相談に対して、どのような支援方法があるのか、今現在、展開している支援が果たして有効なものなのか、日々、答えのない問題を解いている感覚があります。今回、『リカバリー入門』を視聴させていただき感じたことは、現在、関わっている当事者の方たちとの違いです。その方々も精神疾患や障害による苦しみや悩みを抱え、日々過ごされている点では大差はないのですが、どことなく主体性に乏しく、受動的な思考が定着している感が否めません。その原因は断定できませんが、本来、主体的な思考を持っていいた当事者が、様々な要因によって主体的に物事を考え行動することから遠ざかり、気が付いた時には将来のビジョンがかけない方が多数存在しているように思います。リカバリーストーリーを語られた6名の方はいずれの方も過去の経験をしっかり受け止め、現在、そして未来へと主体的かつ意欲的にご自身の思いを具現化しようと頑張っておられるさまが感じられ、この姿こそがリカバリーそのものだとの認識に至りました。さらに、支援する立場としても、当事者の方々がご自身のリカバリーストーリーの主人公になるべく、その領域に進めるようなアプローチを強く意識し、実践・展開できるような取り組みが理想であり、疾患や障害と共存しつつも将来を見失わず、理想を追求する思考・行動が図れるよう、『リカバリーサポート』を目指していきたいと思いました。

⑵”リカバリー”の体験談を聞くことで本人が病を受け止め、良い状態も良くない状態でもリカバリーしているということが、深めることができました。その中でも“仲間”との出逢い、仲間意識、一人病を抱えて、必死に生きようとしている時に仲間や大切な人とお互いに支えあうことで回復され、自立した生活ができることを目指されたのかなと思いました。どのような機関を利用し誰がどのようにつなげてサポートされたのか情報が知りたいなと思いました。

⑶リカバリー入門について6人の方の体験談を聞かせていただきました。精神障害が引き起こされるプロセスに環境と人との相互作用があり、患者個人が変化することを願うのなら環境も変化しなければならないのではないでしょうか。どの方も辛い日々を送られて苦しかった事でしょう。腹立ちさがあられたことでしょう。御本人はもちろんの事、御家族の方もさぞ悩み苦しまれたことと思います。自分の障害を受け入れ、どう向き合えばいいのか…。なかなかむずかしいことだったと思います。いろんなかたちで自分を傷つける行為。そんな中で人との出逢いがプラスになり大きな変化となられた事に感動しとても嬉しくなりました。いい出逢いこそが人生の再建に向けた回復への第一歩ですね。大変な努力をなされたあとの笑顔には輝かしさをうけとめました。

⑷動画でお話しして下さった皆様の話を聞きながら、当事業所の就労継続B型の利用者の方々に重ねて拝見させ

て頂きました。理解してくれる人が居る環境の存在、生き甲斐・やり甲斐を感じて自分が社会人の一人として存在しているんだと思う場所を求めている言動が度々あり、作業を通して日頃感じております。利用者の方々がそれぞれ作業場で自分の価値、責任感、達成感を感じて貰えるようなサービス提供を日々考える必要性があると職員として動画を拝見させて頂いて改めて思います。少し遠回りしてもお互いに乗り越えなければいけない壁があったとしても、いずれこの場所でやって来て良かったんだと思って頂けるよう私も寄り添って、利用者さんを理解する努力をこれからもより一層やっていこうと心に決めました。こういった当事者の方々の気持ちを知る機会を与えて下さり、心から感謝を捧げたいと思います。

⑸今回５名の方の人生に触れることが出来、改めてその人なり「自立」のかたちについて考えた。DVD自体は「リカバリー」についてであったが、私は昔一緒に働いていた同僚(同じ年齢)の言葉を思い出した。「『自立』といっても、働いて自分の収入で生活できることだけが『自立』じゃない。家族と一緒に住んで家事を家族にしてもらっても『自立』している人もいる」(１０年以上昔なので言葉は違うと思いますが…)DVDに出た方もそれぞれが今の自分と向き合って受け止めながら社会で生きている。そこにいきつくまでにおきた出来事をどう受け止めるか、何がきっかけとなったのかもそれぞれだった。今回のDVDをみて、当事業所のB型利用のみなさんが本人なりの「リカバリー」を達成できているのか、その途中経過として進んでいるのか、私はみなさんに関わる者として何を提供できるか。考えてしまった。DVDに出た方それぞれの「リカバリー」にどんな方が関わったか、家族、精神科Dr、友人だけでない、多くの方が関わっただろう。関わった人それぞれ何を思いながら本人と接していたのか、それも知りたいと思った。

⑹先日DVD「リカバリー入門」を視聴させて頂いた。当事者の方々が、自身の持つ経験や考えを語られる様子が収められており、各々のテンポで、時折緊張感を表しながらも実直に語られる姿がそこにあった。同僚職員一同に会し視聴したが、見ているこちら側がハッとさせられたり、つい応援したり、感動したりと視聴室内はさながら生の講演会を拝聴しているような空気感に包まれていた。視聴以前、「リカバリー」という言葉を理解しておらず「病気から回復し以前の状態を取り戻す」、その様な事だろうと漠然とイメージしていた。しかし当事者の方々が語るリカバリーの内容は、私が持つ事前のイメージとは異なり、よりポジティブで建設的なものだった。今回の講話と同時に提示された資料の中で、「リカバリー」とは「障害を越えて希望のある人生を送ること」と定義されていたが、当事者の方々のお話はまさにその定義を裏付けるものだった様に感じた。と同時に皆さんのお話から「リカバリー」の別の概念を提示して頂いた様に感じた。それは「障がいと共に生きていく」という事である。障がいを否定的に捉えず、それも自身の個性として受け入れ、うまく付き合っていく術に長けている方々に感じた。そしてそれは、大切な人との出会いや触れ合いによってこそ、培われるものだと教えられた気がした。

⑺６名の方々のリカバリー体験のお話を拝聴して感じたのは、皆さん共通して人との出会い、つながりからリカバリーに繋がっているということです。これまで仕事がうまくいかずにふさぎ込んでいたときにその苦労を認められたこと、引きこもりで孤独の中深夜に入ったコンビニで店員さんに声をかけられたこと、入院中に同じ患者同士でつらさを分かち合ったこと等が語られていましたが、今ここにいる自分が認められたとの体験が力の源になっているのではないかと思いました。支援関係の中では、ついその方の課題に視点を置きがちですが、ありのままを認めることがいかにエンパワメントとなるかを考えなおされました。ただ体験談の中で語られていましたが、支援者よりも同じ立場の当事者からの言葉の方が共感できるというのはそうだろうなとの思いを持ちました。当事者グループの仲間を支え合う力には、支援関係は遠く及ばないということは心に留め置きたいと思います。リカバリーとは、自分に合った生きがいのある生活を見つけることではないかと皆さんのお話を聞いて思います。こんな生活ができたんじゃないか、あの人のような生活がどうしてできないのかと不満を持つことはあるのでしょうが、おおまかに全体的に今のこの生活で生きていけると思えれば、それが幸せなのかなと思います。それを支援者として利用者の方といかに歩を進めるのか、考えさせられる機会となりました。

⑻生活訓練サービスの支援員として、利用者の方と一緒に拝見しました。同じ様に障害を抱え、引きこもりの状態から生活訓練を利用し、少しずつ社会と関わっていこうとされています。その方の率直な感想は「病気の時点では共感できる部分もあったが、心の方は理解できない事が多かった。『仲間がみつかった、一人じゃない方がいい』などは理解できない。人に興味がない。仲間とかいなくても困らないと考えているから共感、理解しづらい。考え方がプラス(思考)の人達の発表。自分はマイナス(思考)だけど、それを変えたいと思わない。自

分の事を不特定多数の人に見せれる事はすごいと思った。」と話されていました。私も支援者の立場で観た時に、苦しい思いをされていた時に「きっかけ」があって、そこからどんな支援を受けてこられて、リカバリーできたのかをくわしくお聞きしたいと思いました。又、今利用されている方達と話をされた方達の違いとして、自己理解ができておられ、周りに感謝もされていた事。その違いは何なのか、お聞きしたい。今利用されている方の支援につなげられたらと感じました。「元気でいる責任」「苦しい事ばかりに焦点を当てていた。」「僕が僕に偏見があった」等、当事者の方の本当の気持ちを聞く事ができ、勉強になりました。

⑼今回リカバリー入門を視聴させて頂き、当事者の方のリアルな経験を聞かせてもらう事は貴重な体験でした。また、様々な背景を持たれる当事者の方と関わる上で「仲間内なら理解出来る事」が支援者だと「上から目線」になっていないかを考えさせられました。今回発表された方たちは、各々、居場所や役割、仲間など繋がりを持たれる事で、状況が変化されたのではないかと感じるが、どのようにして繋がりが出来たのか、その中で上手くいく事ばかりではない時に、どのように気持ちを保たれたのか気になった。様々な当事者が見られる際に字幕(視覚の方が入りやすい人向け)や、専門用語の解説などがあっても良いのかなと感じた。

⑽リカバリー入門を視聴して思ったことは、6名全員が精神障害を持っていても自分の障害をしっかりと受け入れが出来、障害という病気を隠さず自分がこういう生活がしたいという夢や希望を持って生活されていて、時には嫌な事や悩み事など自分だけで悩まず信頼できる人に相談したり当事者どうしで意見交換などを行われ前向きに生活をされていることに感動しました。私も精神障害者事業所で働いてやはりしっかり障害の受け入れや希望や夢を持っている方は前に進んでやられていますが逆に相談する方がいない人や障害の受け入れが難しい方は支援者からの話も聞き入れが難しく次第に通所ができない方もいらっしゃいます。そのような方をいつもどのように支援したら今回の方みたいに前向きに生活を送っていけるのか模索しています。今後機会がありましたら当事者からではなく支援者側からの意見も聞いてみたいです。

⑾障害者支援へ従事する者として「自己満足ではないか」「本当に利用者のためか」など、改めていろいろと考えさせられました。視聴した各職員も今後の支援に生かして行く事と思います。視聴した職員の感想文を同封いたします。ご一読していただければと思います。今回は貴重な教材をこころよく貸し出していただき、ありがとうございました。支援を行うにあたり「型にはめていたのでは？本当に、利用者のことを考えたか？自己満足（これだけ支援しているのに）で終わってなかったかと、反省することが多々あった。それは、十分なコミュニケーションを図れなかったのでは、と思った。今回、話をしてくれた6名の方に「ありがとう」と伝えたい。福祉の支援に「正解」はないが、本当に「当人のためか」という部分は乏しかったと思うので、今後の支援ではこの辺りを注意して取り組んで行きたい。

⑿今回DVDを視聴させていただき、改めて自分たちがやれることを考えさせられました。私は、障がい者就労支援事業所で勤務しているパート職員です。地域の一員として、安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、障害の有無に関わらず、だれもが立場を超えて支えあうことがどれだけ大切であるかを学びました。生きづらさを抱えながらも、日々いろいろな工夫をしながら、毎日を過ごし、一人暮らしをし、希望をもって人生を過ごしておられる体験談を聞くことができ、私自身励みになりました。私たちの事業所に来てくださっている、皆さんとのご縁を大切にし、事業所を、ご自身の居場所と思っていただけるよう、また、希望をもって人生を送っていただけるよう、サポートしていきたいと改めて思いました。貴重なリカバリー体験談を話していいただいたピアサポーターの皆様、ありがとうございました。

⒀自身が現在、障がい者の就労支援を務めるにあたり「就労支援」と言ってもまずは利用者様の現状・心境・環境などと多々目を配り、心配りを気がける中で障害であっても健常であっても悩み・苦しいときにあり、まず人としてと線引きすることなく、関係を築き上げて行く事なのでは、と思っていました。健常の方よりうまく解決策や打開を見つけにくかったり…しかし、改めて皆さんのリカバリーストーリーを拝見し、自身の考え、思うところを見つめなおし、やはり自身が思うところよりもより深いところ難しいところで頑張っていく、リカバリーしていくところにいるのでは？？と感じさせられました。寄り添う気持ちを大切に、就労支援という課題の中、実際にはもっと家庭的なところ、個人的なところへの支援が大きい現状もあります。容易ではない、と感じていたことではありますが、今回の活動を見て、また各々利用者様への支援の在り方、こういった活用の可能性など選択肢が開けたようにありました。全く同じケースとしては一つもないハズ。自身がより視野、支援への考えを広げるにあたりこのような機会をもっと必要とすること、大切だと改めて感じました。有り難うございます。

⑭当事業所でも、それぞれの利用者様の病気や障害について理解を深めようと努力しておりそれぞれにあった受け入れや対応・支援を心がけてはいるが、ご本人の受け入れ拒否や理解が難しい部分もあり現状維持…ということが続いている現状にある。スタッフとしてどれだけ心を配って支援をしていても、実際に体験しているわけではないので、それだけでは不十分なのかもしれない…と改めて考えさせられた。また、”支援者”ということで上から目線にならず「一緒に頑張っていこう☆彡」というところにも共感した。最後に、今回このDVDを見て、対応が簡単ではない…と感じていた利用者様も、こういった活動に参加することや元気行動回復“ラップ”を活用することで、それぞれ“リカバリー”できる可能性があり、それぞれの”幸せ”につながっていけるのかも…と希望の光が見えた気がする。又、自身でも活用していきたいと思った。今回改めて考えさせていただける機会を与えて頂きありがとうございました。

⑮ピアサポートみなと（大村市に住んでいる方々）の自分の体験談（リカバリーストーリー）（こうなって障がいにあってしまった）といろいろな方々が一生懸命お話しされていて、それぞれの思いがあるんだなあと感じることができました。見た目には皆さん分からないのですが頑張って社会に溶け込まれている様子がよくわかりました。健常者、障害者が同じ仲間として過ごして生きていければよいなあと思います。よく理解しないといけません。

⑯今回皆さんのお話を聞いて、中学時代のことを思い出しました。というのも、私自身中学時代に二年半ほど不登校でした。大きな理由ではないですが、最初は風邪で休みがちになり、その後は周りの目が気になったり漠然とした不安感があって登校する日が少しずつ少なくなり、それに伴い勉強についていけなくなり中学一年の冬を前に登校を拒絶しました。幸いにも私は先生や友、家族に恵まれ、たくさんの迷惑をかけながらも高校で復帰して、以前の生活を取り戻し、無事に就職もできました。私は仕事をしながらも、時々思い出す感情があります。それは、基本的に無意識に起きることで、自分自身気づくのに時間がかかりましたが「自分は今まで人にたくさん迷惑をかけてきたから、自分の思いを人に話すのは迷惑だ　罪だ」と意識せずに考えてしまいます。仕事をしている中で、同じように現在進行形で不登校の学生さんや、引きこもりの方と出会う機会があります。その方たちも当時の私の気持ちと同じなのか、自分の本当につらく思っていることをなかなか話すことができません。ですが、私も以前同じ境遇であったことを話すと　少し心を開いて笑顔を見せてくれて、話や悩みを少しずつ聞かせてくれるようになることが多いです。同じ経験をした者同士なら話せることはきっとあると思います。同じ経験をしたからこそできるアドバイスがきっとあると思います。そういったことを考えると、皆さんの活動は「同じような思い」をしている人たちに勇気を分けてあげる素敵な活動だと思います。あの頃感じた悩みや苦しみ、そんな中でも感じた感謝やうれしさなどは、きっと今の自分の力になっていると思います。私もこれからの人生や仕事の中で、同じような経験の方の力になれればと思います。皆さんもどうか自分のペースを大事にして頑張ってください。直接的な協力はできませんが、応援しております。

⑰DVDが届くのをとても楽しみに待っていました。まずは、とてもわかりやすいリカバリー入門概論の説明で全体像をつかむことができました。その後にひとりひとりのこれまでの状況や現状、今後などについての思いを一生懸命話されている様子に感動と感謝の気持ちがわき上がってきました。そして、家族として母としての対応の仕方や本人の本心、気持ちを推察するようになりました。おかげさまで、それぞれの方々の生き方を興味深く視聴させていただくことができました。まずは、私が息子の可能性を信じ、あきらめず、情報提供は続けていこうと思っています。一進一退しながらではありますが、自宅以外の居場所や話し相手を見つけられるように支援し続けたいと思います。貴重な教材を本当にありがとうございました。

⑱是非DVDを福祉事業所に配布し、事業所内研修に活用できるようにしてはいかがでしょうか。これからは事業所にピアスタッフが必要になってくるはず。これからも作業に追われるだけの作業所ではなく、自分を見つめる時間ももてる作業所にしたいと思います。すばらしい教材を作ってくださり、ありがとうございました。

⑲発表していらっしゃった皆さんに共通して感じたことは、悩みを共有できる素晴らしい仲間との出会いがあり、周りへ感謝する心を持たれるようになったことが、リカバリーしたいという気持ちへつながり、実際にリカバリーをされるきっかけへなったのではないかという事でした。お話をされていた皆さん、とても弁が立たれていたし、自信や希望に満ちあふれていらっしゃるご様子でした。人の役に立ちたいという気持ちも強く感じ、“ピアサポートみなと”という場所へ行ってみたくなりました。私自身、普段より、知的・精神・身体障がいのある方と接する機会があります。ご本人達が自ら考え、希望されることを大切に、色々なことを提供できる場作りに努めた

いと強く思いました。

⑳皆さん、考えられている事は同じだなと思った。仲間との出会いによって、「自分だけではなかった」と人の温もりにふれて、仲間に出逢えた事が元気の素となり、楽しくすごせる事ができたと。自分にしかできないことを見つけ出し、自信につながればといつも思う。私たちにできることは、それぞれの人の特性を見いだし、伸ばしてあげる事だと思う。人として、真剣に向き合い手助けになれたらと思いました。

㉑精神病を患ってからのリカバリ-を見たんですが、ほんのちょっとしたことで病気になることがわかった。その中でも出会う人々、環境などで普通の生活を取り戻した方もいるということもわかった。病気の方、一人一人で違う対応が必要になるとは思う。一般人でも仕事に失敗したり、挫折したりと人生の中で、いろいろな事が起きると思うので、もう一度やり直すための人との出会いや言葉は大切な事だと思った。

㉒利用者さんの新たな生きがい、居場所を見つけた姿をみて、それまでの過程の背景にあるたくさんの努力と葛藤を乗り越えての講演内容でした。長い年月を経て、それまでの偏見、中傷を受けたり、生活習慣や病院でのケアマネや施設の職員、ピアサポートみなとの方との関わり方やその利用者にあったプログラム等の研究がうまく位置づけされて、回復の道に辿り着いたように思いました。本人の努力もあり、周りのサポート、家族とのコミュニケーションやサポートのタイミングや試行錯誤しながらの毎日を送られている様子がうかがえる内容でした。障害者同士の共有、共感できる場所や巡り合わせが合えば、より多くの障害者を救えるのではないかと感じました。広報的な活動も大切と感じました。発表者の方の生き生きとした発言が頼もしく思いました。

㉓当事者の方々の話が大変参考になりました。近年、特に言われております「大人の発達障がい」。自分でも周りも気づかなく悩んでいる方がかなりいると思います。この長崎大学のような取り組みがもっと進み、全国へ浸透していけば、そういった方も減少していくと思います。これからも、それぞれに合ったリカバリーを継続してください。私も利用者さんの充実のためにがんばりたいです。

㉔障がい者が生きていく中できつく、苦しい思いや体験をひとりで抱え続けることなく、仲間を一緒に分かち合える機会を持つことで、前向きになれたことにこの「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」の必要性を感じた。障がい者のほとんどの方がうまくコミュニケーションがとれずに社会参加ができずにいるところがある。しかし、障がいがあっても夢や希望を持つ当事者の方々が自分らしく生きることができるよう、仲間（ピア）や支援者と共に支え合っていくことによって、充実した生活や夢、希望、将来が見えてくるのではないかと感じた。

㉕出演されていた皆さん、それぞれに辛い経験があり、それをどう乗り越えてこられたかをリアルに話されていて心がジーンとなりました。皆さんそれぞれでしょうが、支えてくれる仲間（友人、家族、パートナー）や安心できる場所、それを共有できることで、新たな気づきを得て、そこからチャレンジしていこうと一歩を踏み出されている所は素晴らしいと思いました。私も日常生活の中で落ち込んだり、考えたりすることは多々ありますが、そこで今何ができるか、自分が楽しくいられる場所、内にこもるのではなく、行動に変えていくことを常に意識して生活していこうと改めて思いました。ありがとうございました。小さな積み重ねを大事にしていきます。

㉖私も、DVDを見てから、自分もがんばっていきたいです。

㉗DVDを鑑賞し、共通しているのが、人と考え方が違う・人間関係やコミュニケーションがむずかしい・理解してくれる仲間がいる、という所が印象に残った。誰でも少なからず同じ思いはしていると思う。そう思った時に、どのようにとらえるのかの違いであったり、どう解決していくかは、人それぞれなので、障害というより個性だと思う。

㉘障害のある方の実体験を聞くのが初めてだったので、どういった感じなのか、少しわかった気がする。どうして落ち込んだのかと聞くのが悪いのではないかと思い、こちらから聞くことに躊躇してしまう事があったが、このようなDVDがあれば、少しは相手の気持ちに寄り添えるのではと思えた。もちろん、すべてにおいてという事ではないが、少しだけでも、分かるという事、知るという事につながると思う。

㉙せっかくのお話なのに話し手によって言葉が聞き取りづらかったので、字幕をつけるなどの工夫があると、なお良くなると思います。「今、どんな話をしているか？」わかりやすくするために画面のどこかにテロップでもあれば、もっと見やすく興味を持てるようになるのではないでしょうか。「生の声、意見」をよりわかりやすくするために画面に工夫をしてもらうと私は助かります。

㉚一人暮らしを始めたり、それぞれの道を歩み、パワーを感じました。自分も一人暮らし、働き暮らすことを実現します。活動所でがんばります。

⑶1)一人暮らしをひきこもりやグループホームから立ち上がってされていたりとすごいと思いました。リカバリーというと回復と訳されるが、病前の元の状態に戻ることだけがリカバリーではないのかなと、リカバリーし続けている間は、私は大丈夫ということを聞き、すごいなあと思いました。私はまだ元の病前の元気なころに戻りたいとひたすら思っているので、でもそれはできないことなので、彼女のような境地になれたらいいなと思いました。

⑶2)「ピア」が障がい者の支えになっていることがわかった。家族の言動が障がい者本人に与える影響は大きい。障がい者の就労は、まだ受け入れる側の態勢が十分とはいえないのでは。

⑶3)自分とは症状のちがう人の話はなかなか聞けないし、DVDはいいと思いました。印象に残った言葉は「あなたしかできない事がある」「一人暮らしの成功体験の話をすることが生きがいです」など、ありがとうございました。

⑶4)ぼくも、ひきこもりの経験があります。ぼくも、ビデオに出演してみたいです。運動が苦手というのは、ぼくも共感できます。少しむずかしかったけど、とてもためになりました。

⑶5)私は、PTSDという病気を持っています。話を聞いてとても勉強になりました。

⑶6)自分も働くことが大変で病気のことでストレスを感じ、仕事をすぐやめてしまいました。病気のことに理解のある職場でないと無理をしてしまう。一般の理解のない職場では辞める時、怒鳴られてしまった。自分は働くと迷惑をかけてしまうと考えてしまったら一人になりました。

⑶7)私も病気がありますが、DVDの皆さんは、たくさんの苦労や人にはあまり言わないことなどを話してくれて、とても勇気のある人たちだと思いました。とても感動的でした。人間関係で悩まれている人たちがたくさんいることに改めてわかりました。

⑶8)私も子どもの頃から他人と違うという違和感を感じて大人になりました。最初は自分が障害者扱いされることが嫌でしたが、今では、自分は障害者であっても、障害者を理解してくれる方、同じ障害者同志、心強く感じることができています。このような体験談は、今後も大切な人救いとなると思います。

⑶9)当事者の体験発表を拝見し、仲間で支え合うことの重要性を学びました。職員はその方の病気の理解が本当の意味ではわからず、当事者同士の声かけが何よりの励ましになることがよく理解できました。また、リカバリーは病気になる前に戻るということではなく、病気とうまく付き合いながら、自分なりの回復をしていくこと、仲間と出会ったことで様々な回復があると知ることから始まると考えました。

⑷0)DVDを見て自分の体験を話そうと思いました。

⑷1)ピアサポーターとして傾聴して気持ちを和らげたり、手助けができればいいなと思います。

⑷2)ひきこもっている人たちが気軽にピアに相談できればいいなと思いました。

# フォーラム

## 1.「ピアサポートみなと10周年記念事業フォーラム」（ピアサポートみなととの共同開催）

日　　時：令和2年11月14日（土）　13：30～16：30
場　　所：オンライン&対面
テ ー マ：元気がでるグループをみんなで創ろう！～
開催案内：長崎県内の就労系事業所、地域活動支援センター等にちらしを郵送
参加者数：56名（オンライン32名）
内　　容：

開会挨拶　長崎大学医学部保健学科　田中　悟郎

鼎談　ピアサポートみなと副代表　片岡　史和氏
ピアサポートみなと共同代表　上田　　忠氏
ピアサポートみなと共同代表　古田　勇貴氏

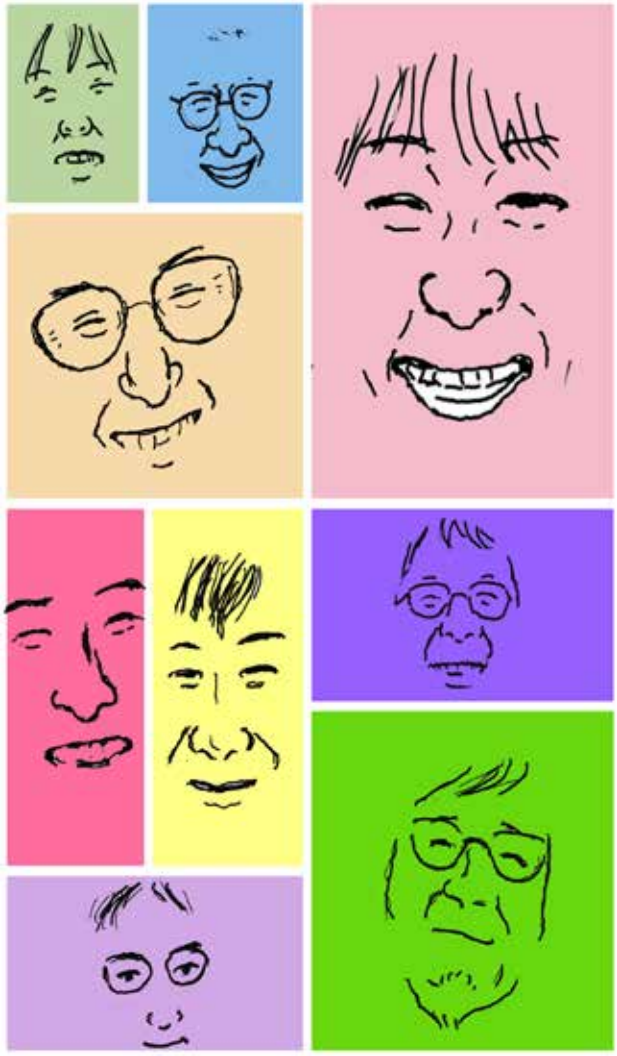
シンポジウム「元気がでるグループをみんなで創ろう！」
東京　精神障害当事者会ポルケ　山田　悠平氏
佐賀　らしさSAGA　吉岡　　洋氏
佐世保　ふたばの陽　沖　　順二氏
長崎　長崎県精神障害者団体連合会　小林　恵子氏
長崎　ピアサポートちゃんぽん　古川美砂緒氏

閉会挨拶　ピアサポートみなと共同代表　古田　勇貴氏

文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業

# ピアサポートみなと10周年記念事業フォーラム

## テーマ「元気がでるグループをみんなで創ろう!」



## in ZOOM

**日時:11月14日(土)13:30～16:30**

**場所：オンライン（zoom）開催**

**参加費:無料**

【鼎談】「ピアサポートみなとの10年」片岡史和氏、上田　忠氏、古田勇貴氏（ピアサポートみなと）

シンポジウム「元気がでるグループをみんなで創ろう」

①山田悠平氏（東京、精神障害当事者会ポルケ）

②吉岡　洋氏（佐賀、らしさSAGA）

③沖　順二氏（佐世保、ふたばの陽）

④小林恵子氏（長崎、長崎県精神障害者団体連合会）

⑤古川美砂緒氏（長崎、ピアサポートちゃんぽん）

### 【申込み・お問い合わせ先】

メールまたはFAXの件名を「申込み：11月14日フォーラム」として、お名前と連絡先（メールまたはFAX）を明記し、10月30日（金）までに下記のアドレスにお申込みください。後日、オンライン（zoom）参加用のID等の情報をお知らせいたします。本フォーラムは、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業の一環として実施します。

長崎大学医学部保健学科　田中悟郎

〒852-8520長崎市坂本1-7-1　メール：goro@nagasaki-u.ac.jp

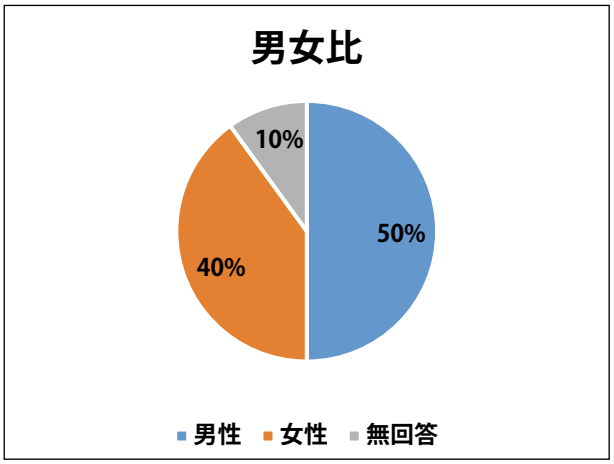
ＦＡＸ：０９５－８１９－７９９６　電話：０９５－８１９－７９９５

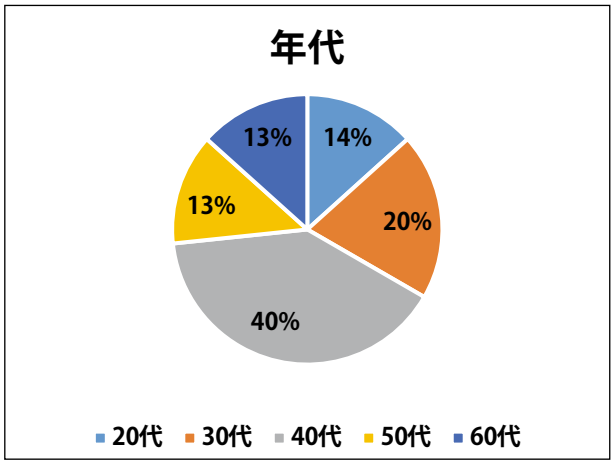
【主催】ピアサポートみなと　長崎大学医学部保健学科

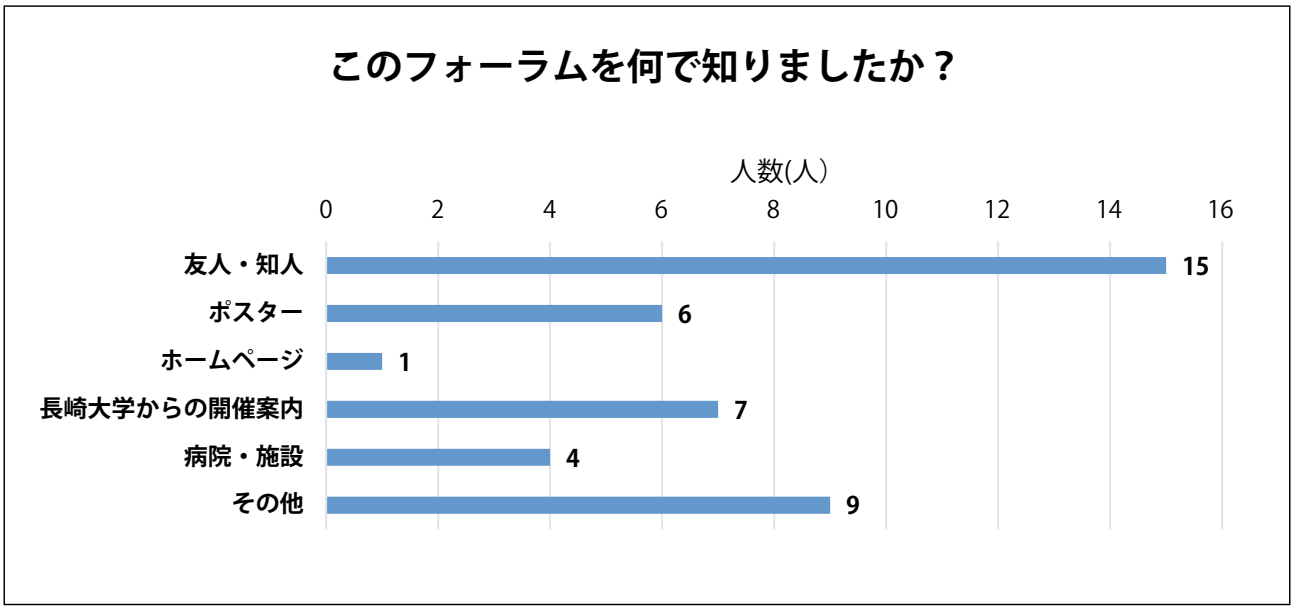
ポスター作成：かたおかようこ&ふみかず

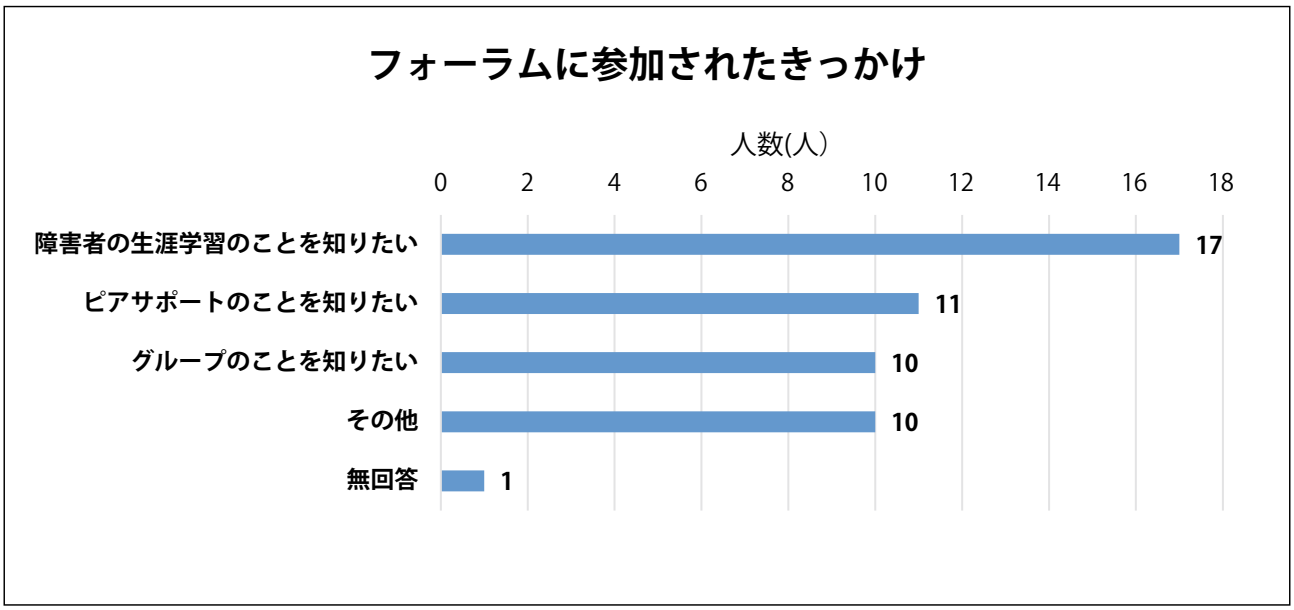
# フォーラムアンケート結果

参加者数56、回収数30（回収率53.6%）

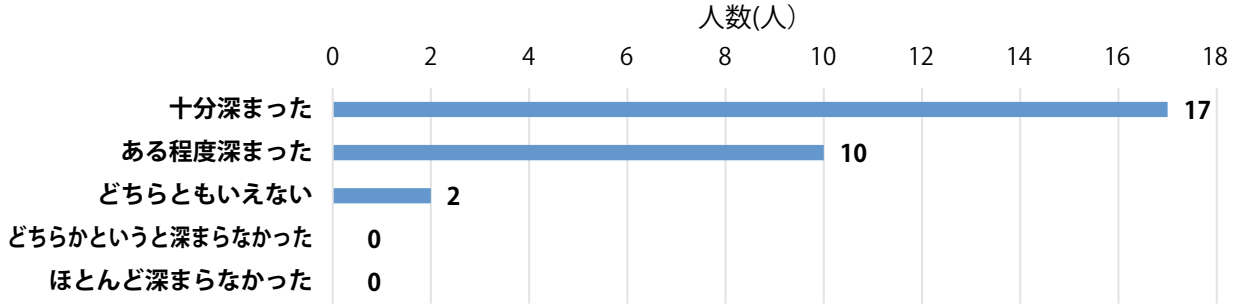


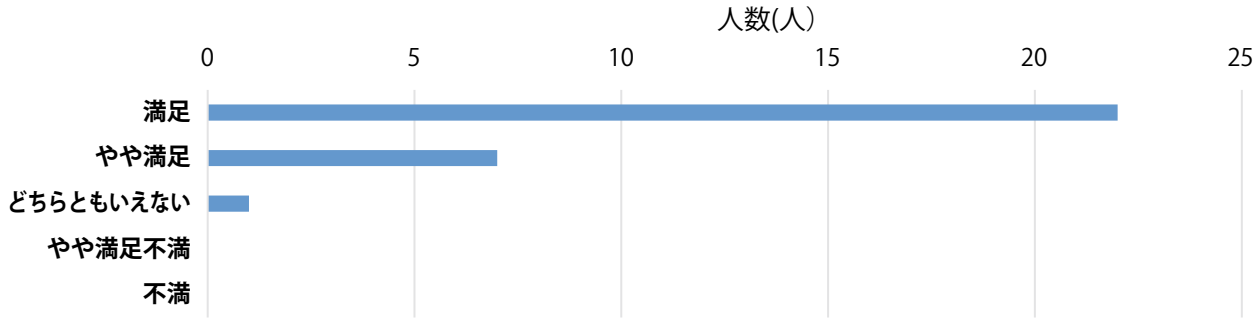



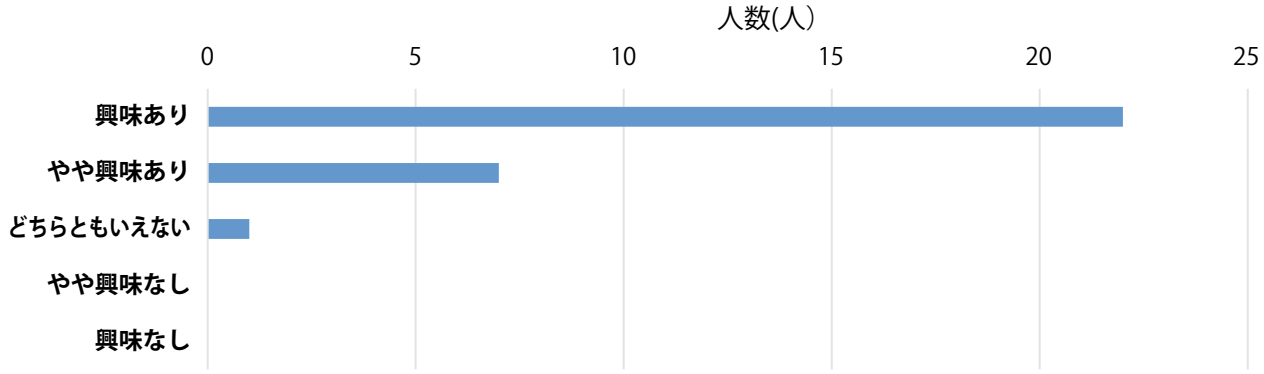
## 障害者の生涯学習プログラムへの興味や関心について




## 満足度について




## 長崎大学の生涯学習プログラムへの興味や関心について



## アンケート（自由回答）

１：今回のフォーラムも皆さんありがとうございました。また来年も企画していきたいです。
２：「立派な精神障害者を目指さない」など皆さん自身の言葉を多く聞くことができとても勉強になりました。皆さんやりがいを持っていきいきとされていた姿がとても印象的でした。ピアサポートグループなどの活動をより多くの人が知ることができるようになっていったらいいなと思いました。
３：とても有意義なお話が聞けて良かったです。今後の自分の活動にも活かしていきたいと思います。
４：ありがとうございました。
５：今日はありがとうございました。
６：皆さんの進んだ話が聴けて良かった。
７：今後も色々な企画がありましたらお願いします。
８：ピアサポートみなと10周年おめでとうございます。
９：今わたしはＰＴＳＤという病気と戦っています。7年前のグループホームの火災から患っています。自殺未遂も3回しました。そしてある心療内科の先生から某病院を勧められる5年間かかっています。そして今、地域の事業所でいろんな病気を持っている人達といろんな話をしてがんばって毎日通っています。シンポジストと知り合い、いろんなことを教えてもらいました。そして今回のシンポジウムを知りました。とてもみなさんわかりやすく、いろんな話を聞けて勉強になりました。ありがとうございました。
10：精神障害を負った時に、逆に当事者会の存在を知り、孤独から解放され、仲間と会う事で自分らしくなっていけた事、みなさんの発表をひとつひとつ思い出をふり返りながら感謝の気持ちです。人生に仲間は必要ですね。
11：みなとの話を聞くと心が明るくなります。
12：今日は鼎談の時、話せてよかったのですが、私が途中つまってしまって分かりにくかったことは申し訳ないと思います。シンポジウムはゲストが経験された方ばかりでとても分かりやすかったです。プロジェクターに映っているチャットの文章が見えづらかったです。
13：立派な精神障害者を目指さないようにしよう…他人に評価されようとすると本来の自分の夢から離れていく→座右の銘にしようと思います。ありがとうございました。本日は奥の深い素晴らしいフォーラムでした。
14：今日の目的、テーマ、内容がバラバラで合っていないような気がした。各当事者会(ピア活動)などそれぞれ色んな活動を行っているみたいだけど基本的にはピアサポートもＤＣのミーティング系の活動と同じような気がする。もっとピアならではの特色とかを出せばいいのにと思った。シンポジストしか発言できてない。
15：コロナも20万件の論文ＡＩ化済み。精神医療も視点を変えてＡＩ化してほしい。
16：皆さん元気そうでよかったです。10THおめでとうございました！
17：ピアサポートみなとをはじめ各地域の取り組みを知る機会となりました。元気が出るピアサポートグループについてまた考えていきたいと思います。運営お疲れ様でした。
18：１０周年、おめでとうございます。とても良い勉強になるお話ばかりでした！ありがとうございました。
19：皆さんの思いが伝わる発表ばかりでした。ピアサポートグループの重要性を感じるとともに、当事者の皆さんのリカバリーの過程も伝わりました。これから本県でも学習プログラムや講座等を検討していくにあたって、参考になりました。それぞれの団体の立ち上げ、長く続ける秘訣などもお伺いしたいところです。
20：今後も長崎大学などからこういうフォーラムなどの情報を教えてください。よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。
21：今日は、大変お世話になりました。このような機会をいただいて感謝申し上げます。
22：とても素敵な企画を、どうもありがとうございました。まず、チラシがとても素敵だったのと、鼎談は、みなとのご活動や、手作りの円卓、御三方のやりとりなど、日頃のご関係について感じられました。シンポジウム は、それぞれのご活動や思いをお聞かせいただく事ができて、また、現実的なところもお話していただけて、とても贅沢な時間でした。質疑の時間にも、またさらにどんどんお聞きしたくなるようなことをたくさんお話してくださり、本当にありがとうございました。企画してくださり、ZOOMで参加させてくださいましたこと、感謝申し上げます。

## 2．令和２年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」（予定）

主　　催：宮崎県　文部科学省
日　　時：令和3年1月23日（土）　10：00～16：00
場　　所：オンライン
テ ー マ：「誰もが、共に学び、生きる社会」を創るために、私たち一人一人にできること
内　　容：実践発表Ⅱにおいて、長崎大学の3年間の事業の成果報告を行う。

# 令和２年度
# 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
# （九州・沖縄ブロック）

日本のひなた 宮崎県

主 催　　宮崎県、文部科学省

日 時　　**令和３年１月２３日（土）** 10:00～16:00

一般参加の方々は、すべて**オンラインでの参加**となります。
※ Zoomウェビナーを使用したライブ配信

## 大会テーマ

### 「誰もが、共に学び、生きる社会」を創るために、私たち一人一人にできること

障がいの有無によって分け隔てられることなく、誰もが生涯にわたって楽しみや生きがいのある生活を追求できる社会、誰とでも学び合うことができる社会を創るために、私たちはそれぞれの立場で何ができるのでしょうか。実践発表やトーク・セッションをもとに、「学校卒業後の障がいのある人の生涯学習」の充実について、参加者の皆さんと共に考える１日にします。

## プログラム

実践発表、トーク・セッションの詳細は、裏面を御覧ください。

| | | |
|---|---|---|
| 10:00-10:15 | オープニング | |
| 10:15-10:45 | 障がいのある人の生涯学習・推進施策 | 文部科学省の取組（障害者学習支援推進室）<br>宮崎県の取組（教育庁生涯学習課） |
| 10:55-12:00 | 実践発表Ⅰ | 霧島おむすび自然学校（宮崎県小林市）<br>株式会社グローバル・クリーン（宮崎県日向市） |
| 12:00-13:00 | 福岡・長崎・宮崎各県から様々な取組の紹介（動画配信等）を行う予定です。 | |
| 13:00-13:40 | 実践発表Ⅱ | 長崎大学医学部保健学科（長崎県） |
| 13:50-14:30 | 実践発表Ⅲ | 福岡市手をつなぐ育成会保護者会（福岡県） |
| 14:40-15:40 | トーク・セッション | テーマ「障がいのある人が地域で学び続けるために」 |
| 15:45-16:00 | クロージング | 総括<br>（九州大学大学院人間環境学研究院　教授　岡 幸江 氏） |

## 参加申込方法

**受付期間：令和2年12月14日～令和3年1月14日まで（参加無料）**

＊　右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、必要事項を入力の上、送信してください。　【URL】https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/zhroQkla

＊　参加申込時にメールアドレスを登録してください。開催日までに当日に向けた連絡事項（ID、パスコード、接続方法等）をメールによりお知らせします。

＊QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

- 参加にあたっては、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 通信環境によって配信の状況が異なることがあります。また、利用する回線の契約プランに通信容量制限や速度制限がある場合は、通信の遅延や通信料の追加等が発生する場合もありますので、御注意ください。
- すべてのプログラムで、障がい（聞こえにくさ）に配慮した配信を行う予定です。
- 参加申込時にいただいた個人情報は、本コンファレンス以外の目的には使用いたしません。

お問合せ　宮崎県教育庁生涯学習課　中野
（TEL）0985-26-7245
（FAX）0985-26-7342

こちらにも情報を掲載しています　みやざき学び応援ネット（宮崎県生涯学習課ウェブサイト）
https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp

## 障がいのある人の生涯学習の充実に向けて、実践発表とトーク・セッションを行います！

### 実践発表Ⅰ（10:55～12:00） 宮崎

**霧島おむすび自然学校**　発表者　事務局長　壹岐 博彦　氏

**「野外活動の楽しさと学びと共にいきいきライフ」**

障がいのある人たちとの数年間にわたる野外での体験活動の成果を、学齢期の子どもや職業的生活を送る成人の体験時の様子とその変容を通じて振り返る。さらに、今後の活動の継続に向けた取組について述べる。

**株式会社グローバル・クリーン**　http://globalclean.co.jp　発表者　代表取締役社長　税田 和久　氏

**「プロフェッショナル清掃から“働きがい”を！」**

８年前、「宮崎クリーン部会」として、プロフェッショナル清掃をチャレンジド（障がい者）で実現する勉強会をＢ型２事業所で開始し、現在７事業所まで拡大。「働きがい」を感じてもらうプロ清掃の仕事づくりを紹介する。

### 実践発表Ⅱ（13:00～13:40） 長崎

**長崎大学医学部保健学科（長崎県）**　http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/jissen-kenkyu/index.html

発表者　長崎大学医学部保健学科教授　田中 悟郎　氏
ピアサポートみなと副代表　片岡 史和　氏
ピアサポートみなと運営委員　冨永 遼子　氏

**「仲間とともに」**

長崎大学医学部保健学科は、2018年度から文部科学省の委託事業として、発達・精神障がい者を主対象に生涯学習活動を実践している。本事業の基本理念は、当事者は「経験のある専門家」及び当事者との共同創造である。

### 実践発表Ⅲ（13:50～14:30） 福岡

**福岡市手をつなぐ育成会保護者会（福岡県）**　https://www.fiku.jp/hogoshakai/index.shtml

発表者　コーディネーター　米倉 裕子　氏

**「儘（まま）でいい！儘（まま）がいい！超参加型音楽活動MLAPの実践報告」**

ダイバーシティからインクルージョンへ！バウンダリーからの解放感を経験しながら誰でも誰とでも楽しく学べるやみつき必死の超参加型音楽活動MLAPの３年間の実践報告と、ネクストステージに向けてのパラダイムを提案する。

### トーク・セッション（14:40～15:40）

**テーマ「障がいのある人が地域で学び続けるために」**

**コーディネーター**　九州大学大学院人間環境学研究院　教授　岡 幸江　氏

専門は社会教育学。埼玉大学准教授、九州大学准教授等を経て、2021年より現職。福祉をはじめとする生活問題に向き合う人々の学習やその基盤としてのボランティア・NPOへの研究関心にはじまり、現在は地域振興や地域教育、農ある暮らしに学ぶことなど、インフォーマル教育としての学びの場づくりに関心を広げている。

**登壇者**

障害者自立応援センター YAH！DOみやざき　当事者スタッフ　新坂 真子　氏

1997年生まれ。特別支援学校卒業後、就労移行支援事業所を経て、現在、障害者自立応援センターYAH!DOみやざきの当事者スタッフとして活動している。一人暮らしを目標に猪突猛進中！！

子どもと家族・関係者の集まり　ポン太クラブ　会長　外山 明美　氏

子ども３人の母親で次男は自閉症スペクトラム・知的障がい。平成18年ポン太クラブを立ち上げ、様々な活動を行っている。都城市障害者施策推進協議会委員、元宮崎県立都城きりしま支援学校PTA会長、保育士、メンタルケア心理士®。　http://ponta-miyazaki.sakura.ne.jp/

宮崎県立小林こすもす支援学校　主幹教諭　福崎 正浩　氏

中学校から教員生活をスタートし、県内各地の特別支援学校勤務を経て、現在に至る。進路指導担当13年目。その間、関係機関と協働して、多岐にわたる職場開拓や卒業生のフォローアップに携わり、職業生活や社会生活に関する個別の対応を行ってきた。現在も、障がい者の自立と社会参加に向けた支援を行っている。

# 広報及び事業成果報告活動

## 1. Web広報

平成30年8月より公開している本事業ホームページにておいて適宜活動報告等の更新を行った。
ホームページ（URL）：http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/jissen-kenkyu/index.html
また、新たに「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」に関する動画配信ホームページを開設した(https://ngs-recovery.net/)。

## 2. 事業成果報告

⑴第54回日本作業療法学会
日　　時：令和2年9月25日（金）～ 10月25日（日）
会　　場：Web開催
発表演題：長崎大学における精神・発達障害のある人の生涯学習活動の実践報告
報 告 者：河野知房、石橋俊作、鎌下莉緒、鴨川拳、田中悟郎
抄録内容：
【序論】
厚生労働省（2017）は、精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう地域包括ケアシステムの構築を推進している。その事業の一つにピアサポーターの養成がある。
文部科学省（2018）は、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業を公募し、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進する方針を示した。
そこで本研究は2018年度より文部科学省の委託事業として実施し、発達障害者及び精神障害者のピアサポーター養成にも貢献できるような、「学校から社会への移行期におけるプログラム（以下、移行PG）」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム（以下、生涯PG）」をピアサポーターと協働で開発・実践した。今回2019年度事業の成果を報告したい。
【方法】
長崎県内の地域活動支援センター、就労支援事業所、相談支援事業所等の計356施設に本研究の目的や方法を記載した移行PGと生涯PGの受講者募集要項を送付した。なお、本研究は共同演者の所属する大学の倫理委員会の承認を得て実施した。
【結果】
受講志願者は、移行PG9名（発達障害者；男性9名；平均年齢22.4歳）、生涯PG14名（発達障害者または精神障害者；男性9名、女性5名；平均年齢45.1歳）だった。ピアサポーターは、地域で定期的に活動しているピアサポートグループの代表・副代表5名に加え、前年度の生涯PG修了者1名の計6名に依頼した。移行PGの目標は「仲間と出会い、自分の特性を知る」とし、月1回日曜日の13：30-16：30に計5回（初回「ピアサポーターのリカバリーストーリー」、2回「障害の心理教育」、3回「コミュニケーション」、4回「ストレス対処法」、5回「自分の特性を伝える、終了式」）、大学で実施した。平均参加者数（名/回）は、受講者8.8、支援者1、ピアサポーター5.4、学生7.6、コーディネーター1、大学教員1.8、計25.6であった。移行PG修了時の受講者9名のPG満足度は、「満足」4名、「やや満足」5名であった。「自分のことについて知ることができた」「自分の特性を相手に伝えることができた」などの感想があった。生涯PGの目標は「夢や希望を持って生きる」とし、月1回日曜日の13：30-16：30に計5回（初回「ピアサポーターのリカバリーストーリー」、2回「障害の心理教育」、3回「WRAP」、4回「恋愛・結婚、当事者研究」、5回「ストレス対処研究、修了式」）、大学で実施した。平均参加者数（名/回）は、受講者10.4、支援者3.8、ピアサポーター5.4、学生7.2、コーディネーター1、大学教員1、計29.2であった。生涯PG修了時の受講者9名のPG満足度は、「満足」5名、「やや満足」4名であった。「何歳になっても、障害があろうとなかろうと、学び続けることは大切だと思った」「人生に踏み込んだリカバリーストーリーがためになった、新鮮だった」などの感想があった。
【結論】
本PGは、①障害者当事者は「Expert by Experience（経験のある当事者専門家）」、②ピアサポーターと専門職が共同創造（co-production）、③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進、などの理念のもと実施した。今回新たに多様なグループワークやピアサポーターとのPG前後の会議を実施した結果、PG受講者及びピアサポーターの語りの中にPGの有効性に言及する内容を確認することができた。

PH-40

# 長崎大学における精神・発達障害のある人の生涯学習活動の実践報告

Practical report of the lifelong study for people with developmental and mental disorders in Nagasaki University

○河野知房(OT)[1)]，石橋俊作(OT)[2)]，鎌下莉緒(OT)[2)]，鴨川拳(OT)[2)]，田中悟郎(OT)[3)]

1）NPO法人長崎のぞみ会 のぞみ共同作業所
2）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
3）長崎大学医学部保健学科

事業名・内容：障害者の生涯学習活動への地域包括的支援
1. 学校から社会への移行期における学習プログラム（移行プログラム）の開発・実施
2. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム（生涯プログラム）の開発・実施

## 研究背景：

① 厚生労働省（2017年）：「精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、社会参加（就労）、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築（ピアサポーターの養成を含む）を目指す」
① WHO（2013年）：「精神障害のある人を対等な協力者とみなし共にケアに取り組むことを重視し、当事者のリカバリー、ピアサポーターの育成・支援、自殺予防などを推進」
② ピアサポートみなと（2010年長崎県大村市で活動開始、当事者、家族、ボランティア、学生、専門職等が共に語り合う活動）：「障害の有無にかかわらず、誰もが悩みを抱える当事者」
③ リカバリーカレッジ（英国で2009年開設、日本では2013年東京に開設）：「当事者と専門職等が共同創造（co-production）し、主体的な学びでリカバリーを目指す」
＊用語の定義：ピア（peer）は「（同じ体験をした）仲間」、ピアサポーターは「仲間を支援する障害者当事者」。リカバリー（recovery）は「障害をこえて希望のある人生を生きること」。

## 連携協議会：委員22名で4回開催し、効果的な実施体制や連携モデルを構築

①ピアサポートみなと5名
（発達・精神障害者当事者）
②長崎発達支援親の会1名
③長崎県3名
教育庁特別支援教育課1名
発達障害者支援センター1名
こども・女性・障害者支援センター1名
④長崎労働局1名
⑤長崎障害者職業センター1名
⑥大村市社会福祉協議会1名
⑦コーディネーター1名（NPOのぞみ共同作業所長、作業療法士）
⑧技術補佐員2名（長崎大学大学院生、作業療法士）
⑨長崎大学教員4名
⑩事務補佐員1名

## 本事業の基本理念：

①障害者当事者＝障害を体験として知っている人、すでに様々な対処や工夫をしてきて貴重な情報を持っている人、“Expert by Experience（経験のある当事者専門家）”
②ピアサポーターと専門職が共同創造：「教える」→「ともに学ぶ」、「支える」→「ともに生きる」
③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進

## 1. 移行プログラムの開発：

①対象：発達障害者9名
（男性9名、女性0名；平均年齢22．4歳）
②目標：仲間と出会い、自分の特性を知る
③内容：月1回計5回、日曜日、13:30-16:30、
毎回ピアサポーターが参加
初回（ピアサポーターの体験談）、
2回（疾患・障害の心理教育）、
3回（コミュニケーション）、
4回（ストレス対処法）、
5回（自分の特性を伝える、修了式）
④特色：Discovery Collegeを参考にプログラムを開発

## 2. 生涯プログラムの開発：

①対象：発達・精神障害者14名
（男性9名、女性5名；平均年齢45．5歳）
②目標：夢や希望を持って生きる
③内容：月1回計5回、日曜日、13:30-16:30、
毎回ピアサポーターが参加
初回（ピアサポーターの体験談）、
2回（障害の心理教育）、
3回（WRAPの体験）、
4回（恋愛・結婚、当事者研究）、
5回（ストレス対処法、修了式）
④特色：Recovery Collegeを参考にプログラムを開発

## 3. 生涯学習推進フォーラムの開催：

障害者の生涯学習を推進する目的でフォーラムを計4回開催し、延べ268名参加した

①こころの元気講座
2019年8月28日、参加数：108名
テーマ：「発達障害を理解しよう」

②ひきこもりからのリカバリーフォーラム
2019年10月12日、参加数：71名
テーマ：「ひきこもりからのリカバリー」

③障害者の生涯学習フォーラムin五島
2019年11月29日、参加数：37名
テーマ：「ピアサポートとリカバリー(ピアサポーターの可能性)」

④障害者の生涯学習活動成果報告フォーラム
2020年1月26日、参加数：52名

### H31年度移行プログラム受講者の感想（抜粋）

A) 「5回ともいろいろな人とかかわることができて楽しく感じ、また機会があれば話をしてみたいと思った」
B) 「人にはその人の悩みがあって、十人十色だった。意見を共有してみるといろいろな視点が見えた」
C) 「自分の苦手な事や困っている事を考えることで自分の知らなかった自分を知ることができた」
D) 「他にも同じ思いをしている人がいることやピアサポーターの人も自分と同じ思いを持っていることを学んだ」
E) 「自分の困っていることや悩んでいることの解決法や対処法などが知れて良かった」

### H31年度生涯プログラム受講者の感想（抜粋）

A) 「何歳になっても、障がいがあろうとなかろうと、学び　続けることは、人にとって大切だと思った」
B) 「体験談を聞くことができたこと、同じ背景を持つ仲間に出会えたこと、それで希望が持てたことが良かった」
C) 「リカバリーストーリーのように踏み込んだ人生内容にふれることはあまりないので新鮮だった」
D) 「どの回も興味が持てて参加でき、外に目を向けるきっかけになった」
E) 「ピアサポートする上で役に立つようなヒントもでてきた」

### H31年度フォーラム参加者の感想（抜粋）

A) 「障害を持っていなくても、自分の欠点や短所に正面から向き合うのは勇気がいり、それを長所に変えていくのもすごいエネルギーだと思う」
B) 「「追い込まれている人間に正論は凶器」という言葉は大変印象に残り、心に響いた」
C) 「皆さんのお話、みなさんの雰囲気、目には見えないけど本当にキズナや信頼があるんだと感じた」
D) 「まずは同じ悩みを持つ、信頼できる仲間とお互い助け合いながら、成長していってくれればと思う」

**目標：共生社会の実現**

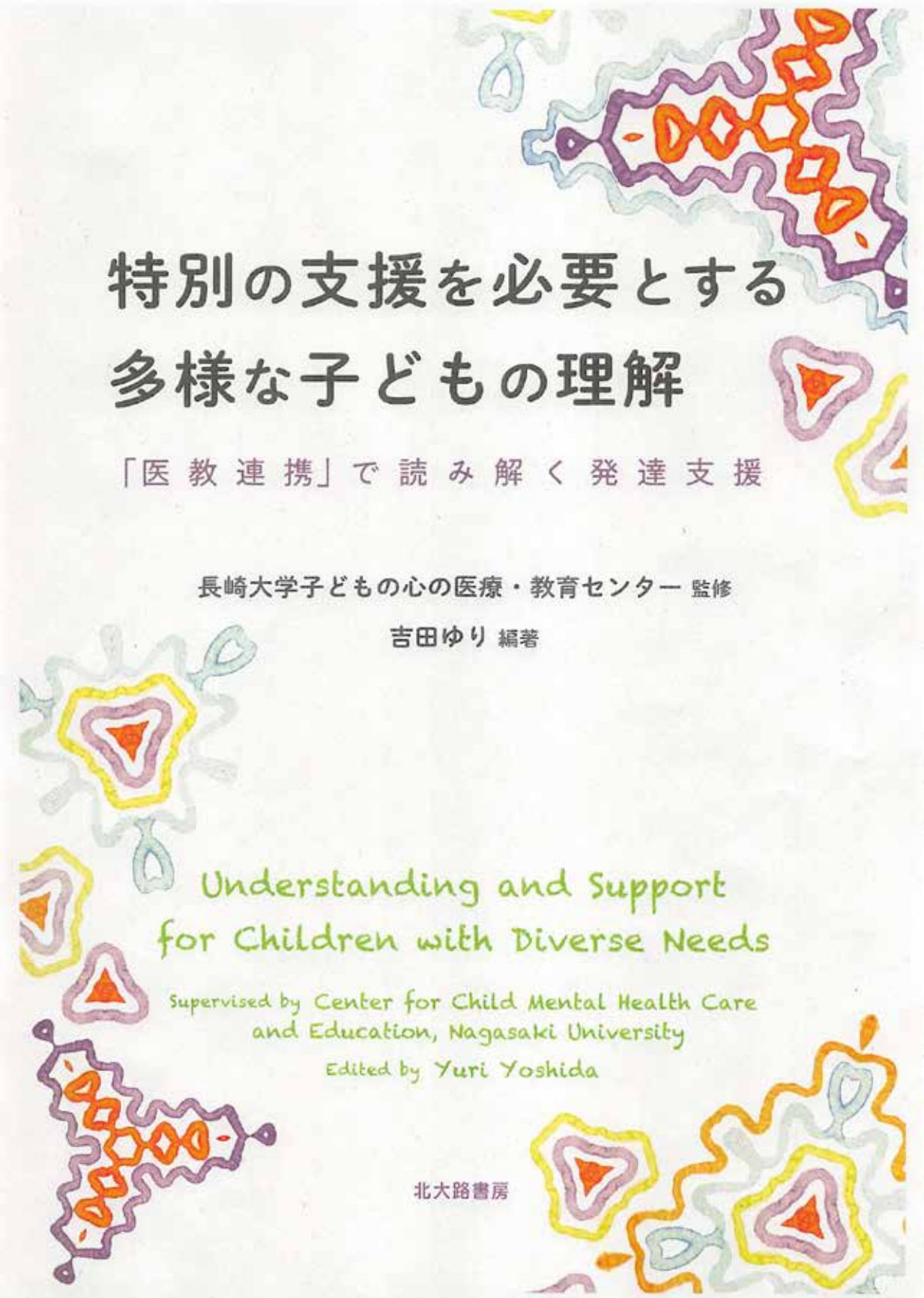
## 考察

本事業では、発達障害者及び精神障害者のピアサポーター養成にも貢献できるような学習プログラム（学校から社会への移行期における学習プログラムと生涯の各ライフステージにおける学習プログラム）を当事者の皆様と協働で開発し、その有効性について評価研究を行った。その結果、昨年度と同様に障害者当事者の語りの中にプログラムの有効性に言及する内容を確認することができた。今後も引き続き、ピアサポーターの活用を推進するための体制整備と当事者の皆様が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすること（リカバリー）ができるような社会の構築に寄与することを目指していきたい。

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

⑵「特別の支援を必要とする多様な子どもの理解」2020年12月発行

本著書の第６章「生涯にわたる教育と支援」第２節「発達障害者および精神障害者の生涯学習の推進」に本事業に関することを執筆した。



# 会　議　報　告

## 1. 連携協議会

委員20名
【外部委員13名】上田忠（ピアサポートみなと・共同代表）、古田勇貴（ピアサポートみなと・共同代表）、片岡史和（ピアサポートみなと・副代表）、片岡洋子（ピアサポートみなと・副代表）、冨永遼子（ピアサポートみなと・運営委員）、杉本哲文（ピアサポートみなと・運営委員）、宮尾尚樹（長崎県教育庁特別支援教育課・係長）、安野啓一郎（長崎県発達障害者支援センターしおさい・副所長）、植松将樹（長崎障害者職業センター・主任障害者職業カウンセラー）、松澤克政（長崎労働局・職業安定監察官）、井戸裕彦（長崎こども・女性・障害者支援センター・係長）、奥野由美（長崎発達支援親の会・会長）、吉田勝博（大村市社会福祉協議会 相談支援事業所 地域生活支援センター・管理責任者）
【コーディネーター 1名】河野知房（NPO法人のぞみ共同作業所・所長）
【保健学科教員4名】澤井照光（学科長：事業推進責任者）、田中悟郎（教授：プロジェクトリーダー）、岩永竜一郎（教授）、徳永瑛子（助教）
【技術補佐員2名】川中瑞帆（大学院生）、米田直人（大学院生）

⑴第１回連携協議会
日　　時：令和2年7月21日（火）　15：00 ～ 16：30
場　　所：長崎大学医学部保健学科1階セミナー兼講義室
参加総数：16名
議　　事：①今年度の事業の背景
②今後の計画

⑵第２回連携協議会
日　　時：令和2年9月23日（水）　15：00 ～ 16：30
場　　所：長崎大学医学部保健学科1階セミナー兼講義室
参加総数：17名
議　　事：①事業の進捗状況
②今後の計画

⑶第3回連携協議会
日　　時：令和2年11月9日（月）　15：00 ～ 16：30
場　　所：長崎大学医学部保健学科2階院生室2
参加総数：16名
議　　事：①事業の進捗状況学
②今後の計画

⑷第4回連携協議会（予定）
日　　時：令和3年1月20日（水）　15：00 ～ 16：00
場　　所：長崎大学医学部保健学科2階院生室2
参加総数：
議　　事：①令和元年度事業の総括
②今後の計画

【会議風景写真】

# 総　　括

# 令和２年度事業総括

長崎大学医学部保健学科
（本事業プロジェクトリーダー）
田中　悟郎

文部科学省は、平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた事業を推進する方針を平成30年に示しました。

長崎大学医学部保健学科は、本事業に「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」をテーマに応募し平成30年6月に採択されました。本学の事業は、発達障害者と精神障害者を対象とした「学校から社会への移行期における学習プログラム（移行プログラム）」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム（生涯プログラム）」から構成され、様々な苦労を抱えながらも、仲間とともに、主体的な学びを通じて、夢や希望を持ち、自分らしく生活することができるように、当事者の皆様を支援することを目的に実施しました。また、プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、ピアサポーターとの交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めてきました。

令和２年度は、コロナ禍のため、オンラインを活用しながら、当初の計画を柔軟に変更しつつ事業を遂行することができました。これもひとえに多くの関係機関・団体の皆様からのあたたかいご支援とご指導の賜物と心から御礼申し上げます。

本プログラムは、昨年度と同様に、①障害者当事者は「Expert by Experience（経験のある当事者専門家）」、②ピアサポーターと専門職が共同創造（co-production）、③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進、などの理念のもと実施しました。今年度は新たに、対面とオンラインを組み合わせた多様なグループワークを実施した結果、プログラム受講者及びピアサポーターの語りの中にプログラムの有効性に言及する内容を確認することができました。

今後も引き続き、ピアサポーターの養成を推進するための体制整備と当事者の皆様が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすること（リカバリー）ができるような社会の構築に寄与することを目指していきます。

皆様のご理解とご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。